

<牧会ミニ通信>No.34 2021. 1. 3

顧みれば50年近くに7つの教会を巡り歩きました。

最初に赴任した教会は、横浜市中区本牧地区の「日本同盟基督教団・上野町教会」です。前任牧師の突然辞任により、急遽9人の後継者の名がリスト・アップされました。ところが居住の狭いこと、牧師給が十分支払えないなどの理由で、次々と断われ、最後に残ったのが、その春神学校を卒業したばかりの、牧会経験のない、しかも、病み上がりのわたしが招聘されることになりました。

1954年に、米国福音自由教会の宣教師 OR デゲルマン師が創立した教会は、すでに14年が経過していました。しかし、いまだ15名ほどの群れでした。会堂には講壇と長椅子20脚しか見当たりません。貧しい上にも貧しい群れでした。妻には洗濯機や扇風機など気の利いたものは持参しないように気配りをしました。洗濯は手洗いでした。

万座で話すことの苦手なわたしは、日曜日の朝夕の奉仕が終われば、あとは脱力状態でした。そうした状態が二三年位続いたのでしょうか。

しかし、このわたしのため、妻や多くの背後の祈りに支えられて、不思議と次第に奉仕に耐えられる体力に回復し始めたのです。

戦後70年頃といえば、高度成長の兆しが見え始めた頃です。しかし、戦後世代の多くは、敗戦の痛手から抜け出せないまま、精神的に不安定な状態が続いていました。そうしたことから、その時代には、多くの者が教会に足を運んできました。

現在ではありえないことですが、いつも、15・6名の若者に囲まれていました。その彼らと真剣に対座し対話に努めているうち、その中から、告白に導かれた多くの受洗者が与えられ、さらに献身を願うものまでも起こされました。牧師として現在も奉仕を続けている方々がおられることは感謝のほかありません。

気が付けば、いつしか、「わが酒杯はあふるる」と言わんばかりの恵みを与えられていました。

周東のぞみキリスト教会： 牧師 結城 晋次